

木漏れ陽

2月

平成31年2月20日 第55号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 松島正和

ハチドリのように

1月で終了してしまいましたが、私が毎回楽しみにしていたテレビドラマがありました。そのドラマは、『ハチドリの家』という子どもシェルターで暮らす子どもたちとシェルターの食事係となった主人公さくらさんと物語です。子どもシェルターとは、虐待を受けたり、いろいろな事情で居場所を失ったりした子どもたちを、一時的に避難・保護する施設のことです。ドラマの中のさくらは、問題や悩みを抱える子どもたちにいつも寄り添い、そして溢れんばかりの愛情で包み込んでくれます。ここで数ヶ月を過ごした子どもたちは、さくらさんに愛と勇気をもらい、新しい社会へ歩き出します。



ドラマの重要なシーンで、度々赤い表紙の本が取り上げられました。実は、この本は私がとても大切にしているものだったのです。

私は市教委で、昨年度から不登校対策担当をしています。不登校対策として行っている事業はいろいろありますが、その中に年6回開催している『7時の集い』があります。この会には、くすのの実の指導員やサポート相談員など不登校対策に関わっている者だけでなく、不登校・不登校傾向の児童生徒の保護者の方、担任・教育相談担当など各学校の先生方にもご参加いただいています。前半はお招きした講師の先生の講話、後半はグループになって意見交流を行っています。これまでに講師としてお越しいただいた方は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど様々ですが、以前くすのの実の室長をされていた先生にもお越しいただきました。先生は講話の中で、『ハチドリのひとしずく～いま、私にできること～』という本を紹介してくださいました。この本がドラマで取り上げられた赤い表紙の本なのです。

この本の内容は、ある時森が火事になります。住んでいた動物たちは、われ先に逃げ出しましたが、一羽のハチドリだけは、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んで火の上に落としました。動物たちが「そんなことをして何になるんだ」と尋ねると、ハチドリはこう言いました。「私は、私にできることをしているだけ」と。この世にある多くの問題は、「自分にできることはもう何もない。」とってしまうことに原因があり、「私にもできることがある！」と思えたら、私たちが抱えている問題の大半は解決するのではないかと書かれています。先生はこの本を朗読された後、「だから私も、私にできることをやっているんです。」とおっしゃいました。室長の時、そんな気持ちで子どもに寄り添われていたのだと感じました。そして、先生は室長を辞められた今も地域で子どもの支援をされています。

学校もこの森と同じ。不登校対策・対応に限らず、学校が抱えている問題は多種多様で、“もう解決できないかも…”と思うことが多々あります。しかし、私達一人一人がどんなに小さなことでもいい、『私にできること』を続けていけば、それが解決の糸口になるのではないかと…。この本を読むたびにそう思えてきます。さくらの『私にできること』、それは子どもに寄り添い、子どもを信じることでした。では、私にできることは何か??きっとそれは小さな小さなことでしょう。しかし、その小さなことを諦めず続けていこうと思います。ハチドリのように。



(学校教育課 指導主事 西岡 いずみ)

引用：辻信一監修『ハチドリのひとしずく いま、私にできること』光文社

佐賀市教育研究発表会開催

1月24日(木)に、東与賀農村環境改善センターにて平成30年度佐賀市教育研究発表会を開催しました。前半は研究所員会の課題研究部と児童生徒理解部による発表、後半は個人研究発表でした。日程的に厳しく行事等と重なったため参加できなかった学校もあったようですが、104名の先生が参加されました。お忙しい中に参加していただきありがとうございました。研究の詳細については、市ホームページや共有フォルダにてお知らせします。今後の授業実践にぜひ活用していただけたらと思います。

課題研究部	よりよい社会の実現を目指して主体的に社会に関わろうとする児童生徒の育成 ～小学校 地域社会とつながる力の基礎の育成を目指して～ ～中学校 主権者として求められる力を育む～
児童生徒理解部	児童・生徒の自己有用感を育む集団づくり ～小中の連続性を図る学習集団づくり・授業づくりを通して～
個人研究発表	9名の先生が研究主題に沿って1年間研究した成果を発表されました。まとめたものは、次年度の初めに教育論文に応募する予定です。



※アンケートには、多くの感想やご意見、提言をいただきました。ご意見等については、次年度の研究に生かしたいと思います。ありがとうございました。

■個人研究の実践を教育実践研究論文に応募

今年度は、9名の先生に個人研究を委嘱しました。自分の研究主題に基づいて1年間研究を積み重ねた成果は、佐賀市教育研究発表会で発表後、次年度5月に弘済会の教育実践研究論文に応募します。今年度応募した個人研究(昨年度の取り組み)の審査結果は下記のとおりです。佐賀市の先生方の教師力向上に資す内容で、参考になる取り組みがたくさんあると思いますのでぜひ参考にしてください。

学校名	氏名	研究主題等	審査結果
勸興小	岩本扶巳	自己有用感を高め、主体的な学びを高めるための学級集団づくり	入賞
赤松小	矢川亮太	自分の思いを表現し、よりよい学級・学校生活を創ろうとする子供の育成	入賞
神野小	渡辺剛史	自然の事物・現象のおもしろさに自ら関わろうとする子どもの育成	入賞
西与賀小	高木公裕	言語活動を通して、国語の力を育む単元学習の展開	柳川善光 教育特別賞
高木瀬小	竹下敏史	「全力」で生活をよりよくしようとする児童の自己評価力の育成	入賞
高木瀬小	福田あや	子どもの自己管理能力を高めるための救急処置活動	入賞
北川副小	野中亮彦	主体的に聞くことができる子供の育成	入賞
北川副小	松永亮	特別な支援を必要とする児童の力を引き出す指導の工夫	佐教弘 教育賞
春日小	峰翔次朗	主体的に生き生きと自分の思いや考えを伝え合う授業づくり	入賞
城北中	手島将之	主権者意識を育てる社会科授業の設計	日教弘 教育賞推薦

■自分の1年間の取り組みを形にまとめることは、教師としての力量アップにつながるばかりではなく、今後の教育実践の大きなよりどころとなります。平成31年度の個人研究は、4月に募集する予定です。教師力向上のチャンスです。先生方、日ごろの実践をまとめてみられませんか。

